

【新紙幣発行記念展示】

深川区教育会会長

しぶさわえいいち えんぜつきろく

渋沢栄一の演説記録

令和 6 年 7 月 3 日から新しい紙幣が発行されました。新一万円札の肖像は渋沢栄一です。これを記念して『深川区教育会報 第二回』(明治 37 年<1904>発行)に掲載された渋沢の演説記録を再びご紹介します。

本記録は、明治 36 年 11 月 7 日に、霊巖寺(現・白河 1-3-32)で開催された深川区教育会第 3 回(秋季)総会の「開会の辞」を書き起こしたものです。演説では「教育はただ知識を与えるというばかりでなく、責任を重んずることが第一」と説き、「教育は教場の中において成長するものでなく、家庭というものが教育については大なる責任をもつ」という持論を展開しています。

「深川区教育会」について

明治 35 年(1902)、深川区の教育向上をはかる目的で、同区有志により設立されました。渋沢栄一は同年 12 月 9 日に会長に就任し、同 37 年 10 月に辞任しています。民間経済人としての活動で知られる渋沢ですが、一方で約 600 の教育・社会公共事業に関わったといわれています。

同会では小学校児童・教育功労者等の表彰、教員の研究および講習会の開設、他府県郡市町村の教育事業の視察調査、区内小学校児童の水泳場経営、会報の発行など 12 の事業を展開していました。大正 10 年(1921)12 月の会員数は 2,258 名でした。昭和 11 年(1936)頃まで会の活動を確認できますが、それ以降の資料がないため、同会のその後については不明です。

展示資料の『深川区教育会報 第二回』には、明治 36 年 9 月 15 日から翌年 10 月 1 日までの活動記録が掲載されています。

明治三十七年十一月十二日發行

深川區教育會報

第二回

『深川区教育会報 第二回』

(深川区教育会、明治 37 年)

如し

開會の辭

會長 男爵澁澤 榮一君演説

速記事務所員 速記

皆様御苦勞でございます、今日は當區教育會の秋期總會でございますして諸君の尊臨を請ひました譯でございます、茲に會長として私から一言開會の趣意を申述べることになります。會務の報告に付きましては既に御手許に報告書を差出してございますから大抵御了意ですつたこと、存じまするのでございます、爾來本會をして成得べきだけ區内教育に補益を多からしめたいと云ふことで、評議員或は幹事理事諸君と共に精々盡力して居りますので、本會が追々區内教育に益を増すであらうと云ふことは諸君に於て十分御承知下さることを願ひます、デ會務の報告は幹事から申上げることにして致しまして私は略して置きます。

而して今日の總會に當つて教育上に關し學說上若くは

經驗上會員外の諸大家に請ふて、成べく諸君の御參考に供したいと云ふ考でソレ／＼御願ひしましたが、一二の御方が病氣等の事故に依つて臨席せられませぬ、去りながら此處に記載してあります通り田口卯吉君清水晴風君が段々有益なる御話をなさる筈でございますから十分御聞取り下さるやうに願ひます。

私は先づ開會の辭として前座代りに一言愚説を申し上げて見やうと考へます、此事は前回にも申し上げましたが、教育のことは教育専門の人のみが之に力を盡すべきものでない、教育當務以外の人が矢張り教育に心を用ゐるの必要を感ぜしめなければ此教育をして效多からしめることは出来ない、故に斯く申上げる私などは教育専門でもなければ、寧ろ教育には縁遠い人間であるけれども、不肖ながら御推選下されば敢て憚らず會長の席を汚し、此席へ出て御話を申上げるに躊躇せぬ、凡そ國民教育と云ふものは段々進んで行つたならば限りがない、勿論上等の教育は必要でありますけれども、併し一般から考へましたならば世の中ををしなべて皆大學者にしたいと云ふことを望むことは出来ない、故に今日の學生が例へば尋常小學からして進ん

演説文の内容（抜粋して要約）

私はまず開会の辞として、前座代わりに一言愚説を申し上げようと考えます。教育のことは専門家だけではなく、教育に従事しない人が教育に心をくだかないといけないと思います。

教育はただ知識を与えるというばかりではなく、責任を重んずることが第一です。このことは誰でも分かっている話で、国に対して租税を納めることや借りがあったら返すこと、約束を破ってはいけないことなど、責任ということは個人より一家一郡一市一国とその程度は限らないものですが、こんにち我が国の現状をみれば、いまだに西洋に比べ遜色があるとというばかりではなく、責任を重んずることが第一です。このことは誰でも分かっている話で、国に対して租税を納めることや借りがあったら返すこと、約束を破ってはいけないことなど、責任ということは個人より一家一郡一市一国とその程度は限らないものですが、こんにち我が国の現状をみれば、いまだに西洋に比べ遜色があると言わざるをえません。小学校の課程にはありませんが、校長や担当教員がこの点に留意することを望みます。

もう一つは公德（社会生活をする上で守るべき道德）をもつことです。日本全般の状況として、外国との人付き合いが下手で行儀も悪いというところがあります。日本人は昔から日本魂とか大和民族だといって誇っているけれど、この点については大いに恥じねばならないと思います。公德の進んでいるイギリスやドイツに比べ、日本ではほとんど見る事ができない有り様です。子供のうちから養成するということは、未来において日本人のいわゆる品格を高める要点であろうかと思います。

それで、ただいま申し上げた責任を重んずるとか公德を重んずるとかいう事柄は決して学校の科目に加えてほしいということではございません。けれども教育がだんだん進むにしたがってそういう注意をはらっていただきたいと思うのです。このことは私が望むばかりではなく、皆様も必ずご同意くださることと思います。開会の辞として一言私の意見であるところを述べました。

（拍手）